

すぐわかる コミュニティ・スクール（CS）

～学校と地域で支える「社会総がかり」の体制づくり～

2つの組織の役割分担 分業 「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」は車の両輪
学校運営協議会（CS） → 【熟議・承認】

学校・保護者・地域が教育ビジョンを共有し、方針を決定

地域学校協働本部 → 【実行】

決定した方針に基づき、実際のボランティア活動を調整・実行

* 教員がボランティアを探すのではなく、地域コーディネーターが実務を担う

コミュニティ・スクール導入の状況（令和7年度調査）

全国（小中学校） 71.6% （前年比 6.3%増）

全国（全校種） 64.9% （前年比 6.2%増）

* 国の方針により、全ての公立学校への設置が「努力義務」となっています。

* 全国の公立小中学校では、約7割がコミュニティ・スクールを導入しています。

豊明市の設置状況と計画（令和7年度現在）

小学校 8校中6校が設置済 → 令和8年度に全校完了予定

中学校 令和8年度～9年度にかけて全3校で設置を準備中

教員にとってのメリット 「外部が入ると面倒」ではなく「本来の業務に集中できる」

【授業支援】 家庭科のミシン補助、図書整理、校外学習の引率補助 など

【校務軽減】 登下校の見守り、朝の挨拶運動、環境整備の分担 など

【心理的安定】 熟議を通して地域の理解を得ることで、孤立しない学校経営

【地域の生きがい】 支援者が「ありがとう」と言われることで、地域も活性化

* やってもらう関係ではなく、「WinWinの関係」を。地域を「応援団」に

* コミュニティ・スクールは、先生の仕事「増やすもの」ではなく、地域の力を借りて
「仕事を分かち合う」ための仕組み



学校運営協議会と地域学校協働本部のイメージ

コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を「電動自転車」に例えると・・・

車輪（前後）：学校運営協議会 & 地域学校協働本部

ハンドルを握る人：校長（学校の責任者）

ペダルをこぐ人：地域コーディネーター（つなぎ役）

バッテリー：教育委員会

乗っている人：子どもたち

☆みんなでビジョンを共有し、同じ方向に進むことが大切！

詳しいことはこちらから（外部リンク）

- ・豊明市教育委員会 公式HP

<https://www.city.toyoake.lg.jp/1638.htm>

- ・愛知県教育委員会あいちの学び推進課「地域と学校の連携・協働ハンドブック」

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/aichi-manabi/chiikigakou-handobook.html>

- ・愛知県教育委員会あいちの学び推進課「あいちの社会教育 広報動画」

<https://www.youtube.com/watch?v=fdZy4lZvPOA>